

iPad (GIGA 端末) 活用実践事例

宇都宮大学共同教育学部附属小学校：指導者：南 勇輔

学年	教科・領域等	単元名・題材名等
5	外国語科	What would you like?

1. iPad 活用のポイント

(1) 本時の目標

Ben 先生(ALT)や Ben 先生の友達に Special Japanese Food を知って喜んでもらうために、紹介する内容を考えよう

(2) 活用アプリ

ロイロノート

(3) GIGA 端末以外で利用した機器

ヘッドセット

(4) アプリの活用場面と目的

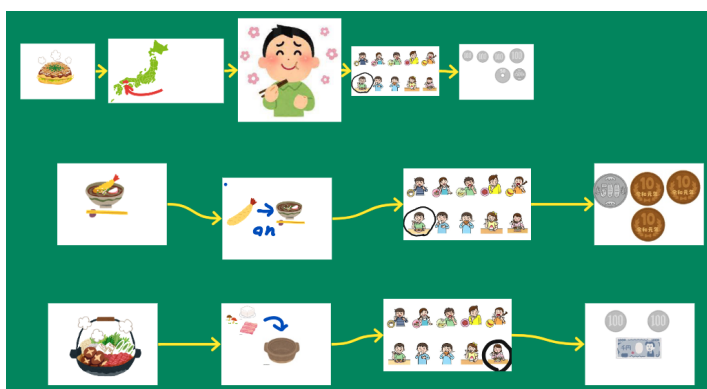
オンライン オフライン

授業での活用場面 (授業概要)

単元を通して、ロイロノート上の絵カードに自分の声で文を録音したセンテンスカードを蓄積していった。本時でも、Special Japanese Food をペアの友達に発表する前に、センテンスカードを見たり聞いたりする場を設けることで、既習表現を想起することができるようにした。また、目的に合った内容にするために、センテンスカードを並べながら話す内容の順番を換えたり確認したりすることができるようにした。

タブレット端末とマイクを使って、自分の前の発表と今の発表を録画し、目的に合った内容か確認する時間を設けることで、目的の達成具合に気づき、より目的に合った内容で発表することができるようにした。

2. iPad 活用の画面例 (写真等)



子どもたちは、単元で蓄積してきたセンテンスカードを使って、発表する内容を考えていた。ロイロノートを活用することで、内容が視覚的に分かるとともに、自分の音声をすぐに聞くことができる。また、カードの並び換えも容易であった。

3. 効果と課題

(1) iPad (アプリ) を活用して効果的だった点

一斉学習	<input type="checkbox"/>	教師による教材の提示				
個別学習	<input checked="" type="checkbox"/>	個に応じた学習	<input type="checkbox"/>	調査活動	<input checked="" type="checkbox"/>	思考を深める学習
	<input type="checkbox"/>	表現・制作	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	
協働学習	<input checked="" type="checkbox"/>	発表や話し合い	<input checked="" type="checkbox"/>	協働での意見整理	<input type="checkbox"/>	協働制作
	<input type="checkbox"/>	学校間の交流	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	

- ・ ロイロノート上にセンテンスカードを蓄積することで既習表現を振り返ることができ、それぞれの子どもが本当に伝えたいことを言うことができた。
- ・ ロイロノート上でセンテンスカードを動かすことで、内容を再構成しやすくなった。
- ・ 一人の子どもが考えたセンテンスカードを全体に配布することで、友達の考えを取り入れながら目的に合った内容へと整理することができた。
- ・ 自分の発表を録音することで、成果や課題に気付くことができた。

(2) iPad (アプリ) を活用して課題に感じた点

一斉学習	<input type="checkbox"/>	教師による教材の提示				
個別学習	<input checked="" type="checkbox"/>	個に応じた学習	<input type="checkbox"/>	調査活動	<input checked="" type="checkbox"/>	思考を深める学習
	<input type="checkbox"/>	表現・制作	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	
協働学習	<input checked="" type="checkbox"/>	発表や話し合い	<input checked="" type="checkbox"/>	協働での意見整理	<input type="checkbox"/>	協働制作
	<input type="checkbox"/>	学校間の交流	<input type="checkbox"/>	家庭学習	<input type="checkbox"/>	

- ・ 個別で考える時間、全体で共有する時間、自分の声を録音する時間など、ICT を用いた様々な活動があったため、予想以上に時間がかかった。より有効的な活用をしていくためにも、活用場面を焦点化していけるとよい。